

エコニュース さって



第 2 号

平成 17 年 5 月 20 日

幸手市民環境会議

(幸手市環境保全課内)

TEL48-0331

幸手市環境基本計画の取組み

幸手市環境保全課

21 世紀が環境の世紀と言われ、16 年が過ぎました。この間、国では循環型社会推進基本法が制定され、また国際社会においては、京都議定書がこの 2 月に発行されたことは、まだ記憶に新しいところです。遅ればせながら幸手市においても、平成 16 年度に幸手市環境基本計画が市民の皆さんの参画によって策定されました。

さて、環境といいますと身近なごみ問題から地球規模のことまで、その範囲は限りなく広がり、時として私たちはいったい何をしたらいいのかも判らなくなってしまうことさえあります。しかし、環境問題を考える時、問題が発生しているのは、人間の営みと自然だったり、人間の営みと社会のシステムであったりと必ず私たちの生活がその対象になっています。ですから、私たちの生活や社会のシステムというものをもう一度再認識することは、環境問題に対処するための一つの解決策だと私たちは思っています。

それには、社会生活の基本となっている個人や家族、企業、行政といった人々がお互いに智恵を出し合い、意見を交換しながら行動してゆくことが大切です。

このたび策定された環境基本計画では、市民・事業者・行政が協働して取り組むことがこの計画の柱となっております。そしてこの計画を進めるに当たってはできるだけ多くの皆さんに参加していただきたいと考えております。

今回、この計画策定に参画いただきました市民環境会議の皆さんにお礼を申し上げますと共に、是非この会議に多くの方が参加されることを期待します。

(市民環境会議各グループの活動)

幸手環境ナビゲーションのスタートが遅れてます

環境ナビグループ

5 月下旬にスタート予定

幸手市ホームページ (<http://www.city.satte.saitama.jp>) から、環境ナビの画面に入れます。 (小沼)

お知らせ下さい。あなたの環境アイデア

市民環境会議は、「環境基本計画」に市民の皆さんの声を折り込むために作業してきました。そして今、上記の環境ナビグループの他に、環境マップグループ、生態系グループ、グリーンコンシューマーグループが活動に取り組んでいます。誰でも参加できます。問合せは、市民環境会議(48-0331)まで。

色付きゴミ袋がカラス対策に有効なのはご存知ですか？

日本全国各地で、カラスによるゴミ集積場荒しの被害が深刻化しています。幸手市でもカラスがゴミ袋を破ってエサをあさり、ゴミ集積場を荒らしている姿をよく見かけると思います。

東京都では1995年に7000羽だったカラスが2001年には3万6400羽に急増、駆除対策を施していますが、2003年には8000カ所のゴミ集積場が荒されました。昨年12月、都の23区清掃協議会は可燃ゴミ収納袋の規格を変更しました。従来は炭酸カルシウムを30%以上混入した半透明のポリエチレン袋だけが推奨されていましたが、新規格では、炭酸カルシウムを含まないポリエチレン袋や、愛知万博で話題の生分解性の樹脂袋、ペットボトルを再生利用した袋も認められました。袋の厚さの規定も無くなり、青や緑を基調にした色付き袋も使用可能になりました。

規格改正はカラス対策を目的としたものではありませんが、色付き袋が、カラス対策に効果がありそうなことが最近分かってきました。

カラスの生態を研究している宇都宮大学の杉田教授によれば、カラスはにおいではなく、視覚に頼ってゴミ袋のエサを識別するそうです。鳥の視覚は人間より発達しており、人間の目よりも細かく青、緑、黄、赤とその中間色を識別できます。つまり、色の分解能力が高いのだそうです。その秘密は、眼球の中にたくさん入っている直径5 μ mほどの“油球”と呼ばれる球で、カラスの油球は赤、黄、緑、半透明と4種類あり、それぞれがフィルターのように選択的に得意な波長だけを通します。この視覚の特徴を利用して、ある波長帯の光を通らなくすると、“人間の目には半透明の袋も、鳥の目には中身が見えなくなります”(杉田教授)。杉田教授は袋メーカーと共同で青、緑、黄、赤系の32種類の袋を試作し、カラスの反応を調査しました。その代表例が黄色のゴミ袋で、白色のゴミ袋と一緒にカラスの近くに置いたところ、カラスは1分も経たない内に、カラスは白い袋を突きましたが、黄色の袋は7~10分寄り付きませんでした。また、袋の内側にエサを張付けた場合、エサを1発で突く確率は、黄色の袋は白色の袋の半分以下と低かったそうです。“カラスが袋の中身が見えてない証拠”と杉田教授は言われています。

カラス対策については、最近、メディアで良く取り上げられており、過日のNHKの“難問解決！ご近所の底力”で放映されました。その一つの杉並区住民での実証実験では、黄色の試作ゴミ袋を昨年夏の1カ月間、可燃ゴミを出す日に169カ所のゴミ集積所で実験的に使用し、うち7カ所の集積所で定点観察した結果、黄色の袋は全く突かれませんでした。白い袋は5カ所で被害に逢いました。さらなる効果を確認するため、杉並区は今春から半年間の再実験をすることです。現在、23区清掃協議会は、袋の色を目にやさしいため緑や青を推奨していますが、今後黄色も検討するかも知れない、と話しています。

一方、杉田教授によれば、“青や緑でも、カラスの見えやすい波長を吸収する素材を使うなら、理論上期待できる”とのこと。

幸手市も東京都の実験を参考に色付きのゴミ袋を推奨する方向にしてはいかがでしょうか。(澤村)

絶滅危惧種 **デンジソウ**を救え！ 「デンジソウお守り隊」

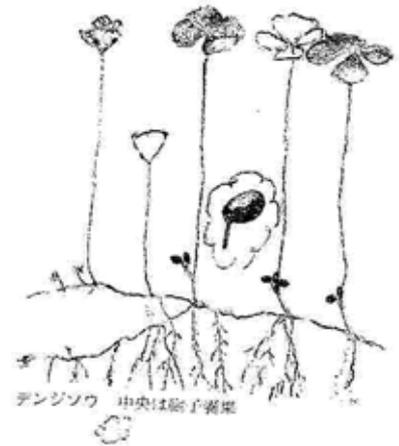
デンジソウは水性シダ植物の多年草で、かつては水田の雑草の一つとしてどこでもみかけたのですが、現在は鷺宮と行田で見られるだけとなっています。

県みどり自然課は、2000年から保護増殖に努めてきましたが、今年からもう一歩進めて、「デンジソウお守り隊」を結成して、自生地の回復を早めることにしました。

活動開始

4月26日、鷺宮の桜田小学校に幸手自然愛護会をはじめ、7グループが鷺宮や久喜からも集まり、株を譲り受けました。幸手自然愛護会は、120株を栽培希望者(36人)に配布して、これから育てていきます。10月頃には全員が「四葉のクローバー」を手にすることを願っています。

デンジソウ 夏場に水面に小さな葉を広げます。葉の形が漢字の「田」の字に似ているので、田字草といいます。最近では、「四つ葉のクローバー」の代用品としてグッズ用に使われることもあるとか。



今年もカントウタンポポが咲いたね！

権現堂堤は幸手に残されたカントウタンポポの群生地です。

巡礼の碑の近く、橋の東側の土手に、今年もセイヨウタンポポに遠慮しながら、カントウタンポポは頑張っ咲いています。皆さんも散歩で通りかかったりしたら、その存在を確かめて、応援してやってください。

カントウタンポポとセイヨウタンポポ

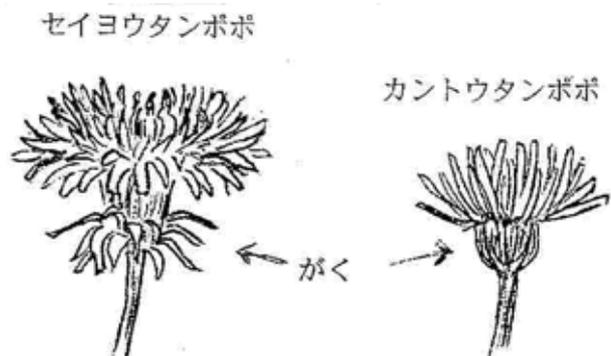
どっちがどっち？

みんな同じように見えるタンポポですが、関東で代表的なのは、もともと日本にあったカントウタンポポとヨーロッパから来たセイヨウタンポポです。

花をひっくり返してみると違いがわかります。セイヨウタンポポは「がく」がそり返っていますが、カントウタンポポはしっかりくっついていています。

セイヨウタンポポは花粉がつかなくても種ができることや、春に限らず秋まで花が咲く事などからも繁殖力が強く、今見られるタンポポのほとんどはセイヨウタンポポになってしまっています。

(環境科学国際センター編生態園MAPより)



こんな活動しています・その2

子供たちと季節の見つけっこ

幸手ひがし幼稚園

(「広報さて」4月号掲載・・・さいたま環境賞・県民大賞受賞)

園内には、芝生の広場やハーブ園のほかに、園児たちのクラス毎のコーナー(畑)があって、5月17日には、年長組のみんなと、さつまいもの苗を植えました。

おいもさんの苗を畝に寝かせて、土をかぶせて、お陽様に「大きな、大きなおいもさんにしてください。」とお願いしました。

最近、農水省が推進している「食育」教育が、ここでは、36年も続いています。(本田)

昭和44年4月設立
園長 中村 和枝
学校法人 東萌学園
園児数 202名

5月～7月の行事・活動

環境保全課 48-0331

5月29日(日) 9時 - 11時(雨天中止)

江戸川クン大作戦

集合場所：九郎右エ門集会所前

(8時以降、市役所から送迎バス運行)

幸手権現堂堤桜保存会

5月28日(土)～7月3日(日)

あじさい祭り

場所：権現堂堤

65種・約5,500株の紫陽花が皆さんのご来場を待っています。

幸手自然愛護会(自然観察クラブ改め)

7月2日(土) 9時 - 12時

子供たちと共に自然とふれあうつどい

見て・食べて・考えて見よう

場所 北公民館

内容 キューピー(株)工場見学ほか

対象 市内在住、在学の小学生と父兄、誰でも参加できます。

定員 50名(先着順)

参加費：200円

*問合せ 横田さん 43-1373

幸手地産地消研究会 (会員40名)

火、木、日曜日 10時、土曜日 12時

ゆうあい農産物直売所

場所：幸手郵便局東隣

夕市(りそな銀行駐車場、第1土曜日午後5-8時)にも参加しています。

*問合せ 増田さん 42-3813

花いっぱい咲かせ隊 (会員約30名)

5月21日(土) 毎月第3土曜日

花壇の整備

場所：駅入り口(御成街道交差点) 市役所モニュメント、幸橋など5カ所

*問合せ 折原さん 42-1459

権現堂環境保全協議会(会員約500名)

5月27日(金)

ケナフの種まき

場所：権現堂川小学校

6月：会員研修会

彩の国資源循環工場(寄居町)の見学

*問合せ 上竹さん 42-3423

県環境科学国際センター

(騎西町上種足 0480-73-8363)

*どの行事も6月1日から電話で受付

6月11日(土) 13:30～15:30

やってみよう!パソコンで環境家計簿

参加費：無料

定員 20名(小学生は保護者同伴)

6月12日(日) 13:30～15:30

花の色からPH試験紙を作ろう

参加費：100円

定員 20名(小学生は保護者同伴)

6月30日(木) 13:30～15:30

地球温暖化と埼玉県の取り組み

参加費：無料

定員 100名